



# かがやき自立活動通信

平成29年12月18日 NO. 47

子どもたちとコミュニケーションを図るときに、子どもそれぞれの実態に応じた関わり方が必要です。加えて、支援者側は子どもの話をいつでも聞く姿勢、話したい雰囲気をつくることも大切になります。今回は、「子どもの話したい気持ちを育てる」ことについて考えてみたいと思います。

## 話したい気持ちを育てる



### 子どもへの関わり方

#### 【質問の量を減らす】

子どもによっては、質問が多すぎると理解できずに答えられなかったり、混乱してしまう場合があります。子どもの理解できる言葉の量を考えてみましょう。また、質問を聞くより子ども自身が自分のことを自由に話す方が表現しやすいです。支援者は質問の量を減らし、子どもの話を「しっかり聞いているよ」と子どもが分かるようにします。

#### 【話し方を助言しない】

支援者はついつい「しっかり話して」「ゆっくり話して」と言ってしまいがちです。このような言葉かけは子どもにとってプレッシャーになってしまいます。続くと話す気持ちが減少してしまうこともあります。支援者は話し方についてより「なるほど、～だったんだね」「A君（さん）は～したの？」というように、内容について確認したり聞いたりする方が子どもにとって「聞いてくれている」という気持ちに繋がります。



#### 【話を最後まで聞く】

子どもの話を最後まで聞きましょう。途中で聞くのを止めてしまったり、いつもと同じ話題だからと言って「それは知ってるよ」と返してしまうと子どもが「話しても聞いてくれない」と、話す意欲が減少してしまいます。同じ話や分かりづらい内容でも最後まで聞くことで、「聞いてくれた」「また話してみたい」という気持ちが育ちます。



#### 【児童生徒の発達に合わせたコミュニケーションを心がける】

言葉の理解は子どもによって様々です。難しい言葉や表現では理解できない場合もあります。例えば、「それ、早めにやってね」では「早め」がどのくらいか分かりづらいです。「それ、今からやってね」「それ、3時までにやってね」等、具体的に伝えた方が分かりやすいです。また、「今、できないわけではない」という二重否定や「今から掃除をして、終わったらお母さんに教えてくれれば、手を洗っておやつの時間にするからね。」等長い文章は理解しにくい内容です。二重否定を避けたり、短い文で伝えてみましょう。

## 安心して話せる環境づくり

### 【受容的な態度】

どんな内容でも子どもの話を聞く姿勢が大切です。「ダメだ。」「それは違うでしょ！」と否定せず「～したら、～できるよ」と見通しが持てる、意欲に繋がるような表現ができればと思います。また、子どもの話に対して「～だったんだね」「A君（さん）は～したかったんだね」と子どもの話を聞いて受容する態度が話すときに安心感をもたらします。



### 【否定的なコメントを肯定的にする】

「またそんなことをしたの?!」「～は駄目だって言ったのに・・・」等の否定的な返し方は、話したことを全否定された気持ちになりかねません。子どもが話してくれたことを、なるべく肯定的に受け止めましょう。「A君（さん）は嫌だったから～したんだね」「駄目なのは分かっていたけど止められなかったんだね」と受け止め、「今度は～するといいよ」「～すると～できるよ」とより良い方向を示しながら肯定的にしていきます。

### 【よく聞き取れなかったときに困った表情を見せない】

子どもによって、話に脈絡がなかったり、聞きづらかったりする場合があります。その時に支援者は「何が言いたいのだろう?」「分からないな・・・。」と感じてしまいます。すると表情も「何だろう」「困ったな・・・。」という表情になります。子どもはその表情から「話しちゃいけなかったかな?」「うまく言えなかった・・・。」と不安になるかもしれません。難しいですが、支援者の表情をそのまま出さないことも安心できる一つになります。



### 【行事などの緊張する場面では、心配を増加しないようにする】

いつもと違う場面は、子どもにとって不安や緊張を感じやすくなります。そこにさらに「～しないでね」「～を頑張ってね」と負荷をかけ、より心配を増加すると、話せなくなるばかりか、不安から行動上の問題等も生じる可能性があります。

### 【疲れさせないようにする】

程よい疲れならばいいのですが、過度な疲れが生じると意欲が減少して眠れない、イライラする等様々な状態が起こります。そのような中では安心して話すことや意思を伝えることが難しくなります。子どもの疲れ具合は、日頃からチェックしておくことが大切です。その状態を踏まえて話していけると子どもの負担も軽くなります。

## 【自立ノート】



あいさつを交わす中でうれしいことがありました。言葉がまだ出てこないの、言葉であいさつができないAさんです。そのAさんが遠くから手を振りながらこやかにあいさつしてくれました。それまでは自信がなかったので、こちらからあいさつしても視線を合わせるだけでした。しかし、手を振ることで相手に表現し、笑顔を見せてくれました。この一場面だけでとてもいい気持ちになりました。そのように、温かい気持ちになるような力も育てていければと思いました。